

お釈迦様は死は存在しないと 覚られたのです。

4月8日はお釈迦さまの誕生日です。昔から花まつりとして、仏教徒はお祝いをしてきました。

お釈迦様は生老病死を超えられ覚られたと言われます。超えるはどういうことでしょうか。一般的に超えると言えば現状を否定した時をいいます。

世界新記録も世界初も今までの記録や方式を否定した上で、新しい存在肯定された領域を指します。

では、お釈迦様はこの世の既成概念を否定した上で新しい領域を見つけたのでしょうか。

梯(かけはし)和上が『人が死んだと過去形で言えます。人が今ちょうど死んだと現在完了形でも言えます。人が死ぬだろうと未来形でも言えます。しかし、私という言葉をつけると、私昨日死にましたも、私今ちょうど死にましたも言えません。それは生きているからです。私は死ぬだろうという未来形しか表現できないのです。それをお釈迦様は、死は存在しないと見つけられたのです。この世の終わりはありますが、生き続け生まれていく世界があるのです』と教えて下さいました。

生まれて死んで生まれて死んで、を繰り返しているのを輪廻転生といます。しかし、それは仏教の思想ではないのです。

お釈迦様は死なない生き続けるいのちの存在に出遭ったのです。それをなもあみだぶつとも、覚りとも言ったのです。

なもあみだぶつに出遭っている私達も死なないいのちを持っているのです。だから、死を超えることができるのです。死を恐れない心境に立っている姿はお釈迦様と同じなのです。有難いことです。合掌



写真は興元寺の桃